

フィンネットワーク通信

2015年5月号

こんにちは！
フィンネットワークの赤木広紀です。



キリシマツツジが真っ赤に咲きほこる
近所の長岡天満宮を散策するのが日課と
なっている今日このごろです。



花や樹といった植物に触
れると、四季の移り変わ
りを感じるだけでなく、
物事は変化しつつも循環
しているということと思
い出させてくれますね。

話は変わりますが、最近、料理をする機会が増えて
います。どの食材を使い、どの順番で料理し、栄養バ
ランスも考えと、慣れないアタマから火が噴き出そうに
なりますが、毎日、献立で頭を悩める世の奥様方の大
変さがほんのチョットですが実感できました。

「趣味は料理です」と言える日が来るように！？
もう少しガンバリマス！

それでは今月もよろしくお祈りします！

なかなか前に進まないクライアントさんにご う関わっていただければいいですか？

2013年1月にスタートしたコーチのための勉強会。
第19回目を5/31(日)に長岡京(京都)で開催します。
http://www.finenetwork.com/seminar/study_group/

この勉強会は、参加者からの質問に答える形で進めて
いきますが、今回は、以前に頂いた質問に誌上で答え
ていきます。

Q.「なかなか前に進まないクライアントさんにご
う関わっていただければいいですか？」

A.コーチングは、クライアントさんが現在いるところ
(A地点)から行きたいところ、すなわち目標やゴール
(B地点)にたどり着くのをサポートするものでは
ありますが、このとき、クライアントさんによっては、単線的、
つまり直線的にA地点からB地点にたどり着けると
思ってしまう人もいます。

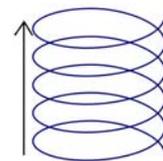
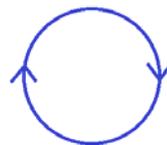
実際にコーチングセッションをしていると分かりま
すが、一直線に進むというよりは、「三百六十五歩の
マーチ」(古っ!)のように三歩進んで二歩さがりな
がら、一步一步前に進んでいきます。

三歩進んで二歩さがる、そんな歩みのとき、クライア
ントさんの中にはせっかく進んだと思ったのに、また
戻ってしまったとガッカリする人もいます。

しかし、コーチはここでクライアントさんと一緒にガ
ッカリしたり、焦る必要は全くないんです。

なぜかと言うと、変化は単線的ではなく、らせん状に
起きるからです。

らせんを上から見ると、同じところを
グルグル回っているようにしか見え
ません。



でも、横から見ると、
着実に上昇しているんですね。

「成長はらせん状に起こる」

それをコーチ自身が実感していればいるほど、クライ
アントが「思うように進まない・・・」と嘆いていて
も、ドンと構えて安心して相手を受け止めることがで
きます。

その安心感が、クライアントの焦りを減らし、やるべ
きことを淡々とやり続けられるような精神状態に戻
し、結果的にクライアントは順調に変化するのです。

コーチは、「どうすればうまくいくか」という方法・
手段をもつことは大事でしょう。しかし、それ以上に、
クライアントが「うまくいかないな」と思っている
ときに、その焦りや不安を受け止め、大丈夫だという気
持ちに戻せることではないでしょうか。

~~~~~  
コーチのための勉強会で出てくる問いは、クライア  
ントさんのことを心から応援したいと願っている参加  
者の生のテーマです。

だからこそ、他の参加者も全ての質問を自分事と捉え、  
自分ならどうするかと真剣に考えるので、問いへの答  
えやヒント、気づきが生まれるのでしょう。

そんな真摯な思いを持った方々と一緒にできるのが  
何より嬉しいですね。

**ウラも見てくださいね→**

# アミーゴのゆるめる毎日

ファインネットワーク “福” 社長の朝比奈です。

40代にもなると、ここかしこで聞こえてくるのが「親の健康問題」ですね。

私もそうで、3月末に実家の母が入院、手術しました。術後の経過は良好で、退院後の現在は自宅療養しています。

我が母はもともとの持病もあるので、入院するのは通算3回目です。今から25年前の初入院以来ずっと、同じ病院でお世話になっています。



母が通院している病院は、地域で一番の規模を誇っています。

戦前に建てられたという病院は「いかにも」感が漂っていて、建物全体の印象が「グレー」なのですね。



老朽化が進んでいた大病院も数年前に大改修が行われました。10年ぶりに訪れた病院の変わり様には、目を丸くなるばかりです！

改修前は、日が差さないグレーの廊下を歩くたびに、私の気持ちも萎えそうになりました。

さらに母がいた病室も日当たりも良好とは言いがたかったもので、これで病気は治るのだろうか??と何度不安に思ったことでしょう。

改修後、まず病院の色彩が一変しました。学校や病院の象徴だった「グレー」は消え、クリームや薄ピンクの柔らかい色調となっています。

表玄関は吹き抜けで、日が燦々と降り注ぎます。母の病室は高層階で日当たりはもちろん、見晴らしも素晴らしい。大部屋ごとにトイレがあるのも便利です。

さらに病院のレストランや喫茶店という、社員食堂のごとく素っ気ないのが多かったのですが、これも様変わりしてました。

新しく建て替えた大病院は素晴らしいのですが、院内にカフェがあるのですね。母の病院にもタリーズがあって、患者とその家族、見舞客同士の憩いの場となっています。



病院は病気を治すところで、一番大事なものは医療技術だと思います。ただ、毎日を病室で過ごす患者さんの環境も、病状に影響を与えるのではないのでしょうか。

入院となると、患者も家族も気落ちしがちです。せめて環境面でも明るさや過ごしやすさが加わると、気持ちの持ちようが全然違いますね。

今回の母の入院で、しみじみと実感したことのひとつです。

## 今年の花粉症



今や春先の目のかゆみと鼻水は、もはや欠かせない年中行事の一つ。マスクも買うのは60枚入りの箱買いです。

そんな私がですが、な、な、なんと！ 今年は何年よりもはるかに、症状が軽くすみました。目のかゆみも鼻水もあったのですが、体感的には例年より8割減で、楽勝に幕を閉じそうです。

その理由を考えてみたものの、思い浮かぶのはコレでしょうか。

### 「漢方」

私は昨年からは月に1度程度、保険診療の漢方医のもとに通っています。

元々は婦人科系のトラブルで通い始めたのですが、2月頃に花粉症を和らげる漢方も処方してもらい、日に2回飲んでました。

飲んでいても、3月始めには目がムズムズし始め、「ああ、漢方もさほど効かないのかなあ〜。」とガッカリしました。しかし、盛り上がることなく終息していきました。

鼻づまりの方も、4月頃にちょろっと症状が出たくらいです。



症状が軽いと、  
こーんなにラク！

もっとも、断言できない部分もあります。

今年は気温も低めで、雨もやたらに続いています。花粉の飛散量が例年より少ないかもしれませんが、その影響もあるのかもしれませんが。

来年も同じ時期に花粉症対策の漢方を飲む予定なので、真価が分かるのはその時かもしれません。

ファインネットワーク通信

発行者：赤木広紀・朝比奈映末

〒615-0025

京都市右京区西院西矢掛町18番地

TEL：075-951-6310

HP <http://www.finenetwork.com>

Facebook <https://www.facebook.com/finenetwork>

